



令和7年度「琴浦町満喫キッズキャンプ」実施報告書

I 事業の概要

1. 期 日 令和7年8月5日(火)～8月8日(金) 3泊4日

2. ねらい

- ・琴浦町と連携し、長期宿泊体験活動を通して、地域独自の自然を体感し文化を学びながら、自律・友情・協力・奉仕の精神を養い、参加児童・生徒の社会を生き抜く基礎的な能力を養う。
- ・琴浦町の魅力を存分に満喫し、地域独自の良さを実感することで、地元地域の魅力に興味を持ち、その地域の発展に貢献する力につなげる。

3. 参加対象 小学4年生～中学生

4. 応募者 61名

5. 参加者 35名 (大学生サポーター 12名)

6. 参加費 12,000 円



7. 日 程

8月5日(火)		8月6日(水)		8月7日(木)		8月8日(金)	
13:30	出会のつどい	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
14:00	オリエンテーション	7:00	朝のつどい	7:00	朝のつどい	7:00	朝のつどい
14:40	交流レク	7:30	そうじ	7:30	そうじ	7:30	そうじ
15:30	めあての設定	8:00	朝食	7:45	朝食→着がえ	7:50	朝食
15:45	野炊説明	8:45	日程説明	8:45	日程説明	8:45	退所点検
16:15	野炊開始 (カレー)	9:15	バス出発	9:10	バス出発	9:00	日程説明
19:00	振り返り	9:45	林養魚場見学	9:40	鳴り石の浜	9:10	谷川探検
19:30	館内肝試し	11:40	昼食(みなとガーデン)	10:30	琴浦町役場2F 「ふるさと学習」	11:50	帰所・シャワー
20:30	入浴(40分) ※班長から	16:40	帰所・休憩	11:30	昼食(役場2F)	12:30	昼食
21:00	班長会議 就寝準備	17:00	入浴(40分)	12:50	八橋海岸着 サーフィン、SUP	13:30	感想記入
21:45	就寝	18:00	夕食	15:40	帰所・シャワー	14:30	別れのつどい
		19:00	振り返り	17:30	夕食	15:00	解散
		19:30	休憩	18:30	振り返り		
		20:00	星空観察	19:00	キャンプファイヤー打合せ		
		21:10	班長会議	19:30	キャンプファイヤー		
		21:45	就寝	20:40	入浴(40分)		
				21:00	班長会議		
				21:45	就寝		

II 実施状況

■1日目の活動の様子<8月5日(火)天候 曇り>

満喫キッズキャンプには小学4年生から中学生までの35人が参加した。協力してくれる学生サポーターは12名の参加となった。交流レクリエーションでは活動班ごとの交流の場面を作ることで、班員同士が徐々に打ち解けることができた。また、部屋の仲間とも慣れるように、同じ部屋のグループでの活動も取り入れた。

夕食は野外炊飯で、班ごとにカレー作りを実施した。サポーターの支援を受けながら、班員で協力して美味しいカレーを作ることができた。

振り返りの時間では班ごとに分かれて輪になって感想を書いた後、サポーターの進行でお互いの意見を発表しあった。

夜の活動は肝試しを実施した。スタート地点まで来ると、何人かが緊張している様子だった。時間をずらしてスタートすると、何人かの悲鳴が館内で響いていた。

班長会議では、班長だけでなく学生サポーターも出席することで、一緒に相談したり、アドバイスをもらったりすることでより中身の濃い会議となった。



■2日目の活動の様子<8月6日(水)天候 晴れ>

2日目からは町バスを利用して、所から離れた場所での活動となった。午前中は林養魚場で「琴浦グランサーモン」の養殖を見学した。施設の説明を聞くグループと、エサやり体験との2グループに分かれて交代で活動した。説明の中には、「日本国内でも希少な養殖の方法を行っている」という話題もあり、参加者たちはとても興味のある様子で説明を聞いていた。

琴浦町内にある「みなとガーデン」で昼食をいただいた。刺身などの生魚が苦手な参加者に配慮して、海鮮丼だけでなく他のメニューを設定することで「みなとガーデン」さんの美味しい食事に満足できた。

午後は一向平キャンプ場をスタートして大山滝を目指す「大山滝ウォーク(ハイキング)」を実施。携帯したWBGT計を確認しながら、水分補給の休憩もこまめにとることで大山滝までハイキングできた。

夜は星空観察を実施した。今回の星空観察の講師は2人をお願いした。1人目の講師として黒見祥平氏を招いた。また、2人目の講師については普段から講師もしている指導員をお願いした。2人の講師のお世話になりながら、大きな望遠鏡で星を眺めることで、星についての学習ができた。



■3日目の活動の様子<8月7日(木)天候 晴れ>

3日目も町バスで移動しての活動となった。鳴り石の浜に移動し、「鳴り石の浜プロジェクト」の上田啓悟氏に案内をしていただいた。ひまわりの花壇や、波によって石が音を立てている様子などについて紹介していただいた。自由時間になると、参加者は石を積んだり、湧き水を見たりなど、思い思いに楽しんでいる様子だった。最後に参加者がプラスチックのゴミを拾って上田氏に渡すと、上田氏はマイクロプラスチック問題についても説



明された。環境問題について考える場面となった。

次は琴浦町役場に移動し、企画政策課の西村蓮氏から「惑星コトウラ」についての講話を聞いた。「ブランディング」、「キャッチフレーズ」などのキーワードを交えながら、まちづくりについての講話を聞いた。参加者にとっては、鳴り石の浜、役場での講話と琴浦町について学ぶことで、自分自身のふるさとについて考える場面となった。

お昼には琴浦町で有名なあごカツバーガー、自然の家の給食会からあげやおにぎりをいただいた。

昼食後は海岸での活動を計画していたが、強風や雷注意報が出ていたこともあり、所の活動に変更した。革を使ってペンケースを作ったり、所の近くにある河川プールで水遊びやスイカを食べたりなど、参加者にとっては思い出に残る時間となった。

夜はキャンドルファイヤーを実施した。各指導員がスタンプを一つずつ実施し、学生サポーターもスタンプを行い、参加者たちと盛り上がった時間となった。



■4日目の活動の様子<8月8日(金)天候 曇り>

4日目の最終日は自然の家プログラムとなっている谷川探検を実施した。1~3班と4~6班の2つのグループに分かれることで一つのグループの人数を減らし、複数の指導員や学生サポーターがグループ内の各所に付き、安全に活動を実施できるよう配慮した。一つのグループは入口付近でターザンロープの活動、もう一つのグループは谷川を登っていき滝つぼに入る活動を行った。この日も暑かったが、ターザンロープや滝つぼでの水遊びを楽しむことで涼を感じる一場面となった。



昼食には、琴浦町内にある大山乳業の白バラアイスもいただいた。また、スイカもいただくことができた。

別れのつどいは、学生サポーターたちの寄せ書きが綴られたホワイトボードを掲示したり、学生サポーターから実際に話を聞いたりすることで感動的な時間となった。



Ⅲ 総括

1. 参加者の感想(抜粋)

- ・ ふだんの生活にもちゃんと生かして、自分をどんどん高めていきたいと思います。
- ・ このキャンプが成立するにはサポーターの皆さんや指導員の皆さんの力が欠かせなかったと思っています。4日間ありがとうございました。
- ・ 4日間の中で班のみんなが成長してうれしかった。
- ・ 協力する大切さを学んだので、それを生かして日々の生活を送りたいです。
- ・ 新しい友達ができうれしかったです。みんなと協力ができました。みんなと楽しく4日間過ごすことができたと思う。
- ・ 琴浦町の自然や文化、おいしい物をたくさん知ることができました。
- ・ 今度は自分の住んでいる市に来てもらって、魅力を伝えたいです。
- ・ みんなと過ごす中でいろいろな感情が味わえた。時には協力して色々なことを乗り越えた。このことを生かしてこれからの学校や協力する場面でもこのキャンプのことを思い出してがんばりたいです。



学生サポーターの感想(抜粋)

- ・ 4日間の活動を通して、子どもたちやリーダーとも仲良くなれて良かったです。自分にできることを探して一生懸命取り組んでいる姿がとても印象的でした。
- ・ レクリエーションや学生の役割は果たすことができたので、今回良かったところは活かし反省点は改善してより良い活動をつくっていきたい。4日間本当に楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ 大学生サポーターとして、もっと今後の活動など見通しを持ったうえで行動することや子どもたちへの声かけをしたいと思いました。
- ・ 3泊4日間という長い時間、子どもたちと過ごしことで子どもの成長を感じることができました。
- ・ このキャンプを通して、コミュニケーションの上手な取り方、安全面のサポート、気遣いや気配りなどについて、子どもたちのおかげでたくさん成長させていただきました。
- ・ 一緒に過ごす時間が長くなっていくにつれてみんなが心を開いてくれて、活動中やすき間の時間で積極的に話しかけてくれて嬉しかった。

2. 成果

- ・ 荒天となった場合に実施する所のプログラムについて、昨年度開発したプログラムのレザークラフトや既存のプログラムなどを実施することで、海岸での活動とは違った思い出づくりにつながった。
- ・ 鳴り石の浜のお話、琴浦町役場のお話を通して「琴浦町」のまちづくりについて学習できた。また、琴浦町のまちづくりを学習することで、自分たちの住んでいる「ふるさと」について意識する場面を持つことができた。
- ・ 学生サポーターたちが、粘り強く班員と関わり、コミュニケーションをとり続けたことで、参加者が活動に対して更に意欲的に取り組んでいく姿が見られるようになっていった。学生サポーターたちの協力に感謝したい。
- ・ 少年自然の家の周辺の自然を生かした活動を体験してもらったり、琴浦町内の厳選した施設をめぐるったり、琴浦町の魅力を十分に満喫していただくことができた。
- ・ 夏の開催ということで、屋外での活動の場面では、参加者個人にネッククーラーと保冷剤を渡し、身体を冷やしてもらうなど熱中症対策に力を入れた。ネッククーラーは活動後に回収し、冷凍庫に再度保管することで、屋外の活動毎に継続して使ってもらえることができた。また、指導員も経口補水液や身体を冷やすための氷を準備し、いざという場面で参加者に使ってもらえるようにした。このことにより、重大な熱中症の症状を訴える参加者はいなかった。



3. 課題

- ・ 時間設定について、昨年度の実施状況をふまえて本年度に活かしたが、時間が足りない場面があったので再検討したい。
- ・ 大山滝は琴浦町の名所であり、大山滝を目指す「大山滝ウォーク」(ハイキング)は企画としてはよかったが、気温がもっと高い日なら実施できなかつた可能性があった。また、滝の手前の道が大変危険であり、子どもたちの実態や時間的な問題から、滝つぼまではコースから除外した。安全面を考慮した結果であるが、計画段階で企画についてもう少し熟考しておく必要性を感じた。